

報告事項 ウ

令和元年度鳥取ふるさとキャリア教育研修会の開催結果について

令和元年度鳥取ふるさとキャリア教育研修会の開催結果について、別紙のとおり報告します。

令和元年12月20日

鳥取県教育委員会教育長 山本仁志

# 令和元年度鳥取ふるさとキャリア教育研修会の開催概要について

小中学校課  
特別支援教育課  
高等学校課

## 1 趣旨

新学習指導要領の趣旨を踏まえ、ふるさと鳥取県におけるキャリア教育の在り方について理解し、校内外の連携を踏まえたふるさとキャリア教育の推進のための具体的な手立てについて考える。また、小学校から高等学校まで学校段階を越えて児童生徒が活動を記録し蓄積する「キャリア・パスポート」についての理解を深める。

## 2 開催日時・会場

- (1) 日時 令和元年11月28日(木) 午後1時から午後4時30分まで
- (2) 場所 ハワイアロハホール 大ホール他

## 3 参加者

約280名(小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・特別支援学校の教職員、市町村教育委員会の指導主事等)

## 4 内容

### (1) 説明「ふるさとキャリア教育の理念とふるさと鳥取から学ぶ教育の充実」

#### ○参加者の感想

- ・教育振興基本計画にも4つの力の1つとしてはっきりと位置付けられていることから、自己の成長への気づきを子どもたちの成長につなげる活動として実施していくため、ふるさとキャリア教育の必然性を強く感じた。理念を説明できるようにしなければならない。
- ・鳥取県の現状として単にキャリア教育ではなく、「ふるさと」がついていることが、この教育の要だと感じた。地域を巻き込み、学校と地域が一体となってこの教育を推進していくことの大切さがわかった。
- ・鳥取県の人づくりを担う「ふるさとキャリア教育」、それを具体的な形にして子どもたちの人生を支えるキャリア・パスポート。その考えを学校全体で共有させ、具体的なパスポートづくりにつなげていきたい。統一項目もはっきりしていきわたりやすかった。

### (2) 講義「新学習指導要領におけるキャリア教育」

○講師 国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター 総括研究官 長田 徹 氏

#### ○概要

- ・予測困難な時代を生きる児童生徒が、よりよい人生を歩むために必要な力を育成することを目指して、キャリア教育を充実させることが大事である。
- ・キャリア教育とは人生の軸をつなぐ教育である。児童生徒が自ら選択し、意思決定していく機会を意図的につくり、学ぶことが将来につながっていることを実感させながら実施することで意味ある取組となる。
- ・授業と社会がつながっている。児童生徒が10年後の姿を描いたり、身近な地域の課題を知り、解決策を考えていったりすることができる力を育てたい。開かれた教育課程のもと、地域社会とつながることを意識しながら児童生徒を育成することが大切である。
- ・[岡山県立高校の事例発表] 商業科の活動であった「津商モール」の取組がもとになり、全校に広げたことで学校内の教育活動をつなげて系統性を持たせた。特別活動を要として校内でキャリア教育の視点で身に付けさせたい資質・能力の整理を行い、焦点化・構造化して、一体としてキャリア教育を実施することで効果があがった。



#### ○参加者の感想

- ・日頃の取組を再度見直し、つなぐことを大切にすることを教職員間で確認したい。今までの取組が急に新しくなるのではなく、教師側の見方や考え方、そして子どもにどう伝えていくのか確認していきたい。

- ・振り返りで、「成長したね」とよく児童に言うことがあるが、児童は感覚的にしか実感できないでいた。キャリア・パスポートのように引継ぎ、残しておく、児童自身も視覚的に振り返ることができると感じた。
- ・「子どもたちのやっていることを大切につなぎましょう」という最後の言葉に賛成する。縦にも横にも生徒理解にも自己理解にもつなげることが、最終的に子どもたちの幸せにつながるなど実感した。子どもたちの今と未来をつなげるのがキャリア教育であるのなら、キャリア・パスポートを活用し、適切な教育相談をしていきたい。

### (3) 分科会

#### 【分科会1】小・中・義務教育学校

##### <テーマ>「校種間をつなぐキャリア教育の充実」について

###### ○概要

- ・持参した各学校のキャリア教育全体計画の見直し
- ・中学校区ごとのグループで、各学校で実施する取組について協議
- ・中学校区ごとのグループで、地域につながりのある学習について共有

###### ○参加者の感想

- ・各校のキャリア教育の取組がクローズアップされていないので、今後連携を取りながら取り組んでいきたい。
- ・町内の方向性も少しみえてきた。今後も話し合いを重ねていくことが必要である。
- ・中学校区で統一したい項目等について、話ができよかった。
- ・来年度に向けて、具体的にどのようにしていくのか方向が見えてきた。
- ・地域の学習が見えるので、ふるさとの学習について話がしやすく有意義だった。

#### 【分科会2】高等学校

##### <テーマ>「キャリア・パスポート」の活用について

###### ○概要

- ・高等学校におけるキャリア・パスポートの各シートの取扱いと例示資料の説明
- ・各校におけるキャリア・パスポート導入に係る今後のスケジュールの説明（キャリア教育全体計画の見直し、各シート検討等）

###### ○参加者の感想

- ・小学校や中学校での学びの履歴を高校が引き継ぐことで、より生徒理解が深まることがわかった。
- ・ふるさと教育を実践する位置付けを明確にすることが理解できた。（キャリア教育全体計画の活用）
- ・生徒自身が振り返り、夢を持つことができるようなキャリア・パスポートを作成させたい。
- ・キャリア・パスポートの意義等を校内の先生方と共有する必要がある。
- ・学校全体で正しく理解して生徒の成長につながる形で進めていくことが重要だと感じた。
- ・キャリア・パスポートのメリットは理解できたが、来年度から始まるとなると、負担感が大きい。
- ・働き方改革の中で、新たな取組に対して、代わりに止める取組等の配慮はないのか。

#### 【分科会3】特別支援学校

##### <テーマ>「キャリア教育の充実」について

###### ○概要

- ・各校のキャリア教育の取組について情報共有する。
- ・キャリア・パスポート実施に向けて協議を行う。

###### ○参加者の感想

- ・各校の状況や進めるにあたっての課題などについて知ることができた。実施に向けて他校の意見を参考にしていく。
- ・各校の様々な意見が大変参考となりました。子どもたちが活用できるよう校内で検討を進めていく。
- ・各校の取組み状況を参考にして、子どもたちにとって意味あるキャリア・パスポートとなるよう作成に取り組んでいきたい。
- ・キャリア・パスポートの作成に向けて、各校のアイデアを自校版に生かしたい。
- ・現場実習や交流及び共同学習などの地域での学びの記録が、キャリア・パスポートの内容として活用できそう。